

障害者と共に

第107号

社会福祉法人
キリスト者奉仕会

大牟田市新勝立町3丁目5番地15
大牟田恵愛園
惠愛ワークセンター
ハーブンくぼたつ

誰もがかけがえのない 存在として



法人理事長
叶 義文

誌の配布や法人紹介のビデオ等も上映いたしました。

また、今回初めて手話カフェコーナーを設け「手話は言語である」と法的に位置付けられましたが、少しでも多くの方に手話をなじんでいただければと取り組みました。

お楽しみ大抽選会も盛り上がりました。ご協力いただいた皆様本当にありがとうございました。どうございました。

先日、一〇月二十四日、西南学院大学でチャペルアワーでの講和の機会を与えていただきました。西南学院大学の

学生たちに何を伝えればいいか、いろいろ悩んだ結果、「誰もがかけがえのない存在として」というテーマで、次のような内容の話をしました。

「人は誰でも生きしていく中で、いろいろな壁や困難に直面します。

どんなに苦しくても、どんなに悲しきる希望を失ったとしても、あなたは認め合い、「共に生きる社会の実現」に向けて取り組むことをめざしています。

今回の恵愛まつりについては、次頁以降でご紹介いたしますが、法人創立四〇周年ということもあり、法人紹介コーナーでは、法人創立四〇周年記念

一人一人も、同じようにかけがえのない存在であるということです。

障がいのある人ない人、引きこもりの人、自信が持てない人、LGBTの人、高齢の人、外国人など誰もが平等でかけがえのない存在であるということです。

しかし私たちのまわりではロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルとイスラエルとの戦争、ミャンマーでの虐殺等、多くのかけがえのない命が奪われ続けています。また『重度の障がい者は生きる価値がない』と、多くの重度障がい者が殺された相模原事件等々、かけがえのないはずの命が軽んじられています。

人は過ちを繰り返します。大切なことは他者も同じようにかけがえのない命を生きていること、このことに気付くことです。

学生の皆さんにどこまで伝えることができたかはわかりませんが、これは「自分自身を愛するように、隣人を愛しなさい」(レビ記一九章一八節)聖書:

「自分自身を愛するように、隣人を愛しなさい。」(レビ記一九章一八節)

最後に、来年四月から、「合理的配慮の義務化」が民間にも広がります。「障がいがあるても、皆と平等に暮らしていくための、調整や配慮をしないことは差別であること」が法的にも位置付けられました。学校でも、職場でも、商店でも、教会でも、あらゆる場面での「合理的配慮(過度な負担にならない範囲)」が求められます。

我々一人一人の課題として、「合理的配慮」をすることがあたり前のこととして地域に広がっていけばと思います。誰もがかけがえのない存在として、平等に生きていける社会の実現に少しでも近づいていけるように、皆さんと共に取り組んでいければと願っています。

これからもどうぞよろしくお願ひいたします。



「恵愛まつり」

私たちがこの恵愛まつりで毎年掲げてきたテーマは、「共に生きる出会いを求めて」です。障がいがある人もない人も、大人も子どもも、多様な人たちが「出会う」ことを出発として、お互いを認め合い、「共に生きる社会の実現」に向けて取り組むことをめざしています。

今回の恵愛まつりについては、次頁以降でご紹介いたしますが、法人創立四〇周年ということもあり、法人紹介

として、もう一つ大切なことがあります。それは、自分自身がかけがえのない存在であると同時に、自分の周りの

叶 義文

法人理事長

叶 義文

第37回 日本バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会夏期職員研修会を終えて

障害者就労・自立支援センターたんぽぽ 惠愛ワークセンター 施設長 谷山 恵一

二〇二三年八月七日(月)～八日(火)の二日間、日本バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会夏期職員研修会が熊本県の「玉名温泉ホテルしらさぎ」を会場とし、四年ぶりに開催することが出来ました。

日本バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会は、日本バプテスト連盟に所属し、キリストの福音を土台として、児童福祉、高齢者福祉、障がい者福祉に取り組む六法人①バプテストめぐみ会、②しんもり福祉会、③バプテスト心身障害児(者)を守る会、④相愛会、⑤福岡白百合会、⑥キリスト者奉仕会で構成されています。相互協力・啓発活動(職員研修会・連盟や学会・社会福祉実践会議などへの提言を行っています)。

一九八四年八月に第一回目の夏期職員研修会が神戸市の六甲ハイツで開催されて以降、本研修会は社会福祉事業を運営する諸法人の親睦、情報交換、事業運営等の充実を図るとともに、職員がキリスト教社会福祉の理念に基づき、共に学びあ

うことを目的に毎年開催してきました。第三十七回目の開催となる今回の研修会は直前の台風接近に伴い、急遽、初の試みとなる対面とオンラインによるハイブリッド開催となりましたが、加盟法人から約五十名が参加され、無事に終えることが出来ました。

今回の研修会のテーマは「キリスト教社会福祉が目指すものゝ人としての尊厳を大切にする社会とは？」とし、基調講演に奥田知志先生(NPO法人抱樸理事長、東八幡キリスト教会牧師)をお招きしました。奥田先生はホームレス支援での活動を通じて、当事者と出会う中で様々な社会的課題と向き合つてこられました。社会的孤立や経済的困窮が広がる背景に、単身世帯の増加、人と人との繋がりの希薄化、自己責任論の蔓延、能力向上を軸とする縦への成長に対する過度な期待など様々な要因があり、その解決の糸口として、失われた家族機能を社会化すること、縦の成長だけでなく

繫がることを軸とした横の成長にも目を向けること、問題解決型支援に捉われず問題の解決がなされなくても寄り添い(繫がり)続ける「伴走型支援」の重要性などを語られ、誰もが「助けて」と言える社会の多くのことを学ぶことが出来ました。人と人が繋がり続けることで、誰もが「助けて」と言える社会のあり様について、障がい者福祉・高齢者福祉・児童福祉の分野を超えて、共に考える有意義な時間となつたのではないでしょうか。

パネルディスカッションでは「キリスト教社会福祉の現場から」をテーマに、児童福祉からは相愛会の高木かおる園長、高齢者福祉からはバプテストめぐみ会の高木龍宏セントナー長、障がい者福祉からはバプテスト心身障害児(者)を守る会の金子政彦部長とキリスト者奉仕会の古賀敬之所長から実践報告がなされ、「理念継承」「人材確保・人材育成」「社会貢献や地域との連携」など各法人が抱える共通課題について共有し、今後の方向性について確認し合うことが出来ました。

台風の影響で予定していた一部のプログラムは行えませんでしたが、バプテストに連なる諸法人の職員が集い、キリスト教社会福祉の理念に接し、語り合い、共に考え、分かち合うことが出来る貴重な研修会となりました。私たちは日々の生活の中で社会の常識・習慣・法律に捉われ、支援の現場では専門的な知識や技術に偏重する傾向にあります。主イエスご自身が自らをもつとも小さくされている者として立ち、私たちに積極的な関わりを求めておられます(マタイ二五・四〇)。ここにキリスト教社会福祉の原点があることを覚えて、共に生きる社会の実現に向けて日々取り組んで行きたいと願っています。



法人虐待防止研修会の報告

法人虐待防止委員長
北岡 哲

十月七日(土)講師に福岡県社会福祉士会の青柳壮悟さんを迎えて権利擁護について理解を深め、日々振り返る」をテーマに、法人虐待防止研修会を行い、約二二〇人の法人職員が参加し職種別に事例検討・討議を行いました。講義は「日常の利用者とのかかわり(支援)を振り返る」「支援をする上で、大切にしている考え方を確認する」事を目的に行われました。

障害者虐待防止法について返る「支援をする上で、大切にしている考え方を確認する」事を目的に行われました。

02 障がい者虐待の類型と内容について

障害者虐待防止法、虐待と尊厳の説明、定義(擁護者・福祉従事者・使用者の虐待)、防止の仕組(早期発見義務・通報義務)、その意義を熟弁され、虐待の類型、身体的・性的・心理的・放棄・放置・経済的の虐待を例をあげ説明がありました。

身体拘束に関する考え方 「正当な理由なく身体を拘束することは虐待である事」「自由に行動し生活する権利」「身体拘束は尊厳を侵害する」その影響。廃止は尊厳を回復し、悪循環を止める欠くことのできない事。身体拘束の種類・三要件(切

01 障害者虐待防止法について

返る「支援をする上で、大切にしている考え方を確認する」事を目的に行われました。

04 専門的な支援を行うために必要となる考え方

虐待の状況、実態の数字を紹介。相談・通報やその内訳。その対応。発生要因と特徴の説明がありました。虐待の芽(不適切な支援)を発見したら必ず行動し、報告、要因分析、対応策の検討を行う。これが当事者主体の意識を持つ為に大切な事だと言われています。

05 福祉サービス事業所における職業倫理

虐待の芽(不適切な支援)を発見したら必ず行動し、報告、要因分析、対応策の検討を行う。これが当事者主体の意識を持つ為に大切な事だと言われています。

専門職としての自覚や、専門性を發揮する等、支援について講義が行われました。なぜ必要なのか。リスト者奉仕会の基本理念の紹介がありました。不適切な支援・グレーボーンについて、広い意味で虐待であり、自覚の有無や意図的・非意図的に関わらず、虐待の芽(不適切な支援)であるとの考え方。安心な生活環境は権利擁護にもとづく支援が不可欠で、これを確認していく。その為に周知や身についていくことの大切さが話されました。

迫性・非代賛性・変わるものがない・一時性)、手続き(支援計画記載・説明・記録)が説明されました。「身体拘束の講義」も行われました。

03 障がい者虐待が発生する要因について

に欠かせないもの「権利擁護とは人権尊重を具現化する行動。日本国憲法第11条基本的人権の考え方。(④自立とは「人の助けを得て、自分にふさわしい形で活用できる状態」「人の手を借りて十五分で良い服を着て仕事を出かけられる人間は、自分で衣服を着るのに二時間かかるために家にいるほかない人間より自立している」。⑤本来の力が、否定的な評価や社会的な抑圧の為、パワーレス状態なら、その力を引き出す為のアプローチ。⑥全ての人が同じ条件のもとにおかれるよう、その状況を実現する生活条件の改善が必要だという考え方。⑦社会的排除される人々を包括する社会の為に誰もが共に生きる社会を目指す考え方。

複数の事例の中からひとつ選び、グループで「利用者の権利」「支援者に求められる考え方」を意識して「虐待または不適切な支援」を行っていないか振り返る事を行いました。虐待にあたるのかや、どのような虐待になるか、何故そう思うのかを話しました。

現場で思っていた、大切な事を伝えられないや、どう説明するか、どう考えるのかに答える講演資料になりました。日々の積み重ねや講師の青柳さんの姿勢がじみ出た作り込まれた資料や説明だと思います。した。自立支援の「人の手を借りて十五分で…」このくだりは、分かりやすく爽快でしたし、現状を理解できました。権利擁護の「愛の反対は憎しみではなく無関心である」の言葉は、虐待が無くならない世の中で、自分事と捉える大きさと、捉えきれない人にも伝える大きさに気付いた言葉でした。戦争や虐待が起きていても無関心な事。それを見ている自分。この中で生きている自分達は虐待の芽を持つています。青柳さんの話は、「そんなこと、あるある」と気付かれた方も多かったです。そんな自分と向き合えた時間でした。生活に活動に、「そこに人権の視点があるのか」を確認しながら進みたい。

06 演習「個々の支援について振り返りましょう」

四年ぶりの恵愛まつりを振り返って

恵愛まつり企画委員長 鶴田 優子

今年、四年ぶりの恵愛まつりを開催しましたが、創立四十周年のイベントもあり準備が例年よりも遅くなつた事と四年ぶりというプランもありスタート時から不安も大きかったです。待ちに待つたまつりを皆さんに楽しんでもらいたいと言ふ想いと逆に大きなミスをしていないかという緊張感で胃痛を伴う状態で進めていた事を思い出します。

イベントや体験コーナーは前回上演して頂いた方のツテや職員の知り合いなどで何とか形になり、体験コーナーでは予想よりも多くの方々が参加して下さり、部屋の中が超満員状態でのスタートでした。前日珍しく雨となり気温も下がりましたが、当日は晴天で陽が当たると暑いほどでした。少し風が強くてテントが一々二回飛びそうになるアクシデントも発生しひやひやものでした。四年ぶりということもあり、お客様は数多く参加して下さり、ステージ上の催し物と一緒に歌ったり踊ったりされ、盛り上がりっていました。特に最後のお楽しみ大抽選会では、多くのお客様が参加され、一喜一憂されていました。



イベントや体験コーナーは前回上演して頂いた方のツテや職員の知り合いなどで何とか形になり、体験コーナーでは予想よりも多くの方々が参加して下さり、部屋の中が超満員状態でのスタートでした。前日珍しく雨となり気温も下がりましたが、当日は晴天で陽が当たると暑いほどでした。少し風が強くてテントが一々二回飛びそうになるアクシデントも発生しひやひやものでした。四年ぶりということもあり、お客様は数多く参加して下さり、ステージ上の催し物と一緒に歌ったり踊ったりされ、盛り上がりっていました。特に最後のお楽しみ大抽選会では、多くのお客様が参加され、一喜一憂されていました。

うまいもんフェア、初めての手話力フェアにも沢山の方に参加して頂き、会話も弾んで笑顔も沢山こぼれていました。

食事コーナーもいつものうどんやカレー、焼きそばの他にも初めてクレープ以外のキッキンカーに参加頂き、大反響でした。結局昼休みに買いに行つた時には何処もほぼ売り切れていたので購入出来ずにとっても残念でした。

四年ぶりの恵愛まつりは記憶が曖昧でやつていて内に思い出したこともあり、もつとこうすれば良かったと反省も多々ありました。でもお客様に沢山参加して頂き、笑顔が見れた事、出店して頂いた方も疲れていましたが「また来年も参加させて下さいね」と言わされた事、そして一番の収穫は日頃会う事が少ない他事業所のメンバーと協力して頭を痛めながらも一緒に何かを作り上げたという達成感です。来年もこの経験を生きかし、リベンジの意味も込めてもっと大勢の方に喜ばれ、おもてなしのまつりとなる様に頑張りたいと思っています。

法人常勤職員研修会の報告

法人研修委員 樋口 圭史

現在、社会福祉法人キリスト者奉仕会では階層別研修として、それぞれの役職に応じた研修会（新人研修・常勤研修・責任者研修等）を行っています。今回は、八月十九日（土）に月給以上の職員を対象として行われた、常勤職員研修会について報行させています。

今回の研修会では「キリスト者奉仕会の役割とは～それとの事業の意義を考える～」をテーマに開催しました。

午前中は「当事者・家族の思いを聞く」ということで、法人各事業所に関係する四名の当事者の方にそれぞれお話を聞いていただきました。これまでの施設で人としてではなく物として扱われたことや、耳が聞こえないことにより、実際にお店で受けた差別的な事柄、引きこもりの状態から事業所に通い始め一般就労するまでの経緯等、その中にいる当事者に対してしか受けることのない悩み等話を聞いていただきました。その後、障がい当事者のお子様がおられる法人事業所の職員二名に、当事者の家族としての想いを話していただきました。子育てをする中での苦悩、知識を得るためにたくさんの研修会に参加したこと、事業所によつての対応の違い

等聞かせていただきました。それでも「自分のことで悩まないで」「心で介護してください」という当事者の言葉は深く心に残りました。自分たちが日々利用者の方と接する中で、利用者の方も色々なことを感じておられるはずです。自分たちの行動がどこか業務的になつていてないか本当に向き合えているのか考えさせられました。

午後からは三つのテーマでパネルディスカッションを行いました。一つ目は「暮らしの場と重度障がい者の活動の場」、二つ目が「就労支援」、三つ目が「地域生活の実現と充実に向けて」で、パネラーとして各事業所より課題や大切にしていることなどを発題していただきました。なかなか知ることができない他の事業所のことが知れる良い機会となりました。

今回の研修会では法人理念でもある「当事者の方々の声に耳を傾け、そこから学ぶ視点を大切にする」を実践するための良い研修会になつたと思います。同じ立場に立つのは難しいですが、そこどこまで近づけるかが、これから職員一人一人が大切にしていかなければいけないことだと感じました。

大牟田恵愛園

施設入所(夜間)での取り組み

施設入所責任者代行

荒木 省多

私たちの部署(施設入所夜間)は、夜間帯や土日祝日の日中を中心にして、利用者の生活を支えております。介護面や医療面での支援の他、悩み等の相談を受けたり、休日のイベントとして余暇活動の開催などをおこなう生活面全般のサポートをさせてご紹介させていただけたらと思います。ただいまおこなっている余暇活動という取り組みについてご紹介させていただけたらと思います。今日はその中から余暇活動という取り組みについてご紹介させていただけたらと思います。この取り組みを始めたのは二〇二〇年。きっかけは「土日はなんもすることなか」「退屈か」という利用者さんからの声でした。そこでまず夜勤者間で話し合いの場を設け、全利用者さんへ休日の過ごし方についてのアンケートを実施する事にしました。すると、大半の男性利用者さんは、居室でのんびり過ごしたいとの回答が多くありました。が、女性利用者さんからはクッキンやみんなでお茶会などをしたいとの声が多く、それを元にみんなで意見を出し合いました。

（一〇二〇年十月）
意
いきたいと思
います。
いきたいと思
います。



ナナジユース作り」を開催しました。結果、ほとんどの利用者さんが参加をされ「こういうイベントもたまにはいいですね」「とっても美味しかつた」「日頃部屋にいるから今後もこんなイベントがあれば参加したいです」といった声をいただき好評でした。その後はコロナウイルスが全国的に流行したことでも、しばらく間が空きましたが、二〇二二年（令和四年）三月にかけて夏定番のイベントである花火、スイカ割り、かき氷、そして冬は職員手作りのおみくじをみんなで引いた後、おしるこを食べながらカラオケを楽しみました。また、他部署の職員や職員のご家族の方にも多く参加をしていただき、利用者さんとの交流もより深まり、楽しい時間など思い出しました。「花火なんて何年ぶりだろ」「次のイベントも楽しみ」との声もいただき、これからも利用者さんをもつと「笑顔」にできるよう思いました。

副施設長 福田真由美

スタッフ学習会の取り組み

大牟田恵愛園では、毎月第4木曜日にスタッフ学習会を実施しています。今年度は、「恵愛園が利用者支援において大切にしたいこと」を職員に伝え、理解していくために様々な視点からアプローチする手法で学習を進めています。

今期こだわっているテーマは「自己選択・自己決定の重要性」「パターナリズムからの脱却」です。パターナリズムとは、強い立場にある者が、弱い立場にある者の利益のためとして、本人の意志は問わずに介入・干渉・支援することと定義されています。大牟田恵愛園の中では、知的に障がいのある方、ご自身の意思を表明するのが難しい方、突発的な行動がある方に、職員がその方にとって良かれとの思いで、意思決定してしまうことがありました。その方にとってこれが最善ではないかと考えたにしても、結果的に利用者さんがご自身で決める権利を奪い、場合によっては職員の都合に合わせるように利用者さんをコントロールしてしまうことになりかねないんだということを伝えています。忙しない日常の中、つい業務優先にならないか、一人ひとりの思いを大事に向き合っているかを考える時間を設けることは必要です。スタッフ学習会は、今大牟田恵愛園にとって必要なことを学びながら、悩みながらも一生懸命に支援している職員への道しるべになるような時間になればと願っています。

日程	テーマ	構成	参加人数	内容
4/27(木)	パターナリズムについて	発題:北岡 哲 グループ討議	33名	●パターナリズムがもたらす影響について考察 ●自己選択・自己決定の重要性と 一人の人として尊重していくことの確認
5/25(木)	利用者を中心とすることを前提にそれぞれの部署で課題を抽出し目標を設定	グループ討議 部署ごとに発表	32名	●対等な関係について ●自己選択・自己決定について ●合理的配慮について
6/22(木)	「私」の課題に向き合う	グループ討議 代表者発表	29名	●利用者支援においての「私」の課題とは?のテーマで自分と向き合い振り返る
7/ 8(土)	各事業の充実に向けて ～大牟田恵愛園の将来像を考える～	ビデオ視聴4本 グループ討議 全体会	22名	●障害者権利条約の解説 ●強度行動障害の一人暮らし等のビデオを視聴し、各自が事業の充実に向けた具体的な提案を考える
8/24(木)	大牟田恵愛園が大事にしていること、法人理念を伝える	責任者代行、副責任者による発表	20名	●法人の理念および恵愛園が大切にしていることを理解し、自分の言葉で伝える取り組み
9/26(火)	5月の目標設定後の活動報告	各部署より取り組みの進捗報告	30名	●各部署において6月から取り組んだ内容の整理および発表
10/26(木)	出張伝達研修	発表:本吉、荒木、古賀 北岡、平島、福田	30名	●全国社会就労センター総合研究大会 ●九州身体障害児者施設研究大会 ●権利擁護研修会の内容伝達

惠愛ワークセンター

一泊旅行 く片道二百六十kmの旅

一泊旅行委員 高口 優

今年の惠愛ワークセンターの一泊旅行は、九月三十日から十月一日にかけて熊本を経由し、二百六十kmほど離れた宮崎方面に行きました。

利用者二十六名、職員九名の総勢三十五名で交流を深めることができ、楽しい旅行となりました。前回の旅行後のアンケートで宮崎県へ行きたいという利用者の声があつたことや、遠方でなかなか行く機会がない人が多いのではないか、と一泊旅行委員で話し合い、今回の旅行を宮崎方面へしようと決めました。施設内では旅行の日程が近づくとともに一泊旅行の話が、あちらこちらで聞こえていました。今年は四年ぶりの一泊旅行ということで、みなさん非常に楽しみにされているようでした。

一日目は、熊本県にあるサンントリーア九州熊本工場へ行きました。工場見学ではビールの原材料である麦を実際に食べてみたり、ビールの香りの原料であるホップの匂いを

嗅いだりと、体験をしながらビールが作られるまでの工程や、たくさん機械を見ることが出来ました。そして見学が終わつた後はいよいよお待ちかねの試飲タイム！サントリーア九州熊本工場で作られたビールをはじめ、コーヒーやジュースなどのソフトドリンクも楽しむことができました。歓談しながら試飲タイムを過ごし、あつという間に終了にかけてしまいました。昼食はほど離れた宮崎方面に行きました。

八代グランドホテルで頂きました。小鉢がたくさんあり、みなさん満腹になつてているようでした。午後からは休憩をとらながら青島グランドホテルへ向かいました。夜は宴会で美味しいお酒と宮崎名物の地鶏や豪華なお刺身を食べました。宴会中にピンゴ大会を行い、利用者も職員も大盛り上がりの宴会になりました。

この二日間、みんなの笑顔を見学して歴史ある建物や風景を楽しんでおられました。この二日間、みんなの笑顔をたくさん見ることができます。職員も楽しむことができました。旅行の次日からお仕事だったのです。疲れがまだ残っているのではないかと心配していましたが、多くの利用者が、多く利用者が、「旅行、楽しかった！」と声をかけて頂きました。次回の一泊旅行もみなさんの思い出に残るような楽しい旅行になるよう計画したいと思います。

二日目は、宮崎県で有名な道の駅フェニックスへ向かいました。道中、海沿いの道路を走り、きれいな景色を楽しむこともできました。道の駅には、宮崎県ならではの日向夏やマンゴーを使つたお菓子などがたくさんあり、みなさん思い思ひに買い物を楽しめたり、美味しいマングーストクリームを食べたりされていました。買い物を楽しんだ後はモアイ像が有名なサンメッセ日南へ向かいました。パラパラと雨が降る場面もありましたが、幸い強



施設外就労(デジタル化)でお仕事している利用者さんへのインタビュー

惠愛ワークセンターの施設外就労では、たんぽぽ大牟田中央サテライトオフィスでデジタル化事業に参加しています。現在、A型利用者三名、B型利用者三名の方が参加されています。毎日頑張つて作業に取り組まれています。今回は二名の方を紹介したいと思います。

Oさん

○どのようなお仕事をしていますか
パソコンの入力と本の事前確認をしています。

○お給料をもらつたら何に使いますか
ゲーム機を買います。

○これからやつてみたいことは何ですか
スキヤンの本番をしたいです。

○将来の夢は何ですか
特になないです。これから探していきます。

Hさん

○どのようなお仕事をしていますか
パソコンの入力と本の事前確認をしています。

○仕事をしていく大変なこと気をつけていすることはなんですか
自分が疲れることが大変です。居眠りしないように気を付けています。

○お給料をもらつたら何に使っていますか
洋服を買つたり、遊びに使っています。

○今、欲しいものは何ですか
車が欲しいです。自分で持つていたらどこにでも行けるから。

○将来の夢は何ですか
できたら一般の会社でパソコンの仕事をしたいと思っています。

ケア輸送講習会に
参加して

サービス提供責任者
城野窓香

令や障がいの知識及び利用者理解についてと基礎的な接遇技術及び介護技術についての講義を受け班別で討議をしました。午後からの時間は福祉車両の特性と運転方法の実技と課題に対する介護技術演習でした。

ションハーツ主催のケア輸送講習会に参加しました。参加するきっかけはヘルパーとして働くにあたり、この講習会を受講しなければガイドヘルパーとして動けず一緒に買いたい物や通院に行けないと分かったからです。この講習会には様々なヘルパー事業所から二十名程度が参加し年齢も幅広く二十代から六十年代でした。時間は朝九時から十八時

認定講習カリキュラム(タイムスケジュール)

時 間	内容(予定)
9:05～	受付
9:15～	挨拶・説明(5分)
9:20～	関係法令等について(50分)
10:15～	障害の知識及び利用者理解について(50分)
11:10～	基礎的な接遇技術及び介護技術について(前半) 【講義・班別討議】(60分)
12:10～	昼食休憩
13:00～	基礎的な接遇技術及び介護技術について(後半) 【実技体験】(60分)
14:05～	運転方法について(50分)
15:00～	福祉自動車の特性について【講義・実技】(60分)
16:00～	福祉自動車の運転方法等について【実技】(60分) 1人 20分の運転等の実技があります。 待ち時間はレポート記入。
17:00～	安全・安心な運行と緊急時の対応について(50分)
17:50～	挨拶・連絡(10分)

- 当講習は1日で行います。都合により、講習の順序が変わる場合もありますので了承下さい。

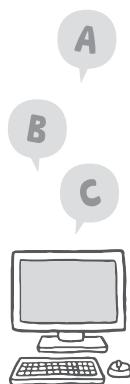
無資格の人でも、今後介護系の資格取得予定の方などどなたでも参加可能で
すので、ご興味ある方は是非ご検討よろしくお願ひります。

て知る事が多くありました。介護技術では利用者と接する時の心構えはバイスティック原則を押さえたうえでの支援方法等を学びました。忘れている事も多く演習では介護方法など再確認する事が出来ました。最後に運転方法と福祉車両の操作方法を学びましたが、ケア輸送では車の運転は安全に行う事、交通ルールを守る事は当然ですが、乗車している利用者の身体状態に合わせた運転や車内での利用者とコ

ミニ二ケー・ションも、とても大切な事と感じました。今は、この講習で学んだ事を活かしてガイドヘルパーをしています。しかし、人材不足や高齢により、多くの希望があるてもヘルパーを派遣出来ず、困っているのが現状です。その為、ハーツでは寄り添えるガイドヘルパーを増やそうと今回十二月二日(土)にケア輸送講習会を予定しています。認定講習会のカリキュラムは左記の通りです。

地域活動支援センター I 型
パソコン教室

相談員
福山
聰子



ド・マウスの基本操作や文字入力等から主に始めます。中級(全六回)では、インターネット閲覧(様々な便利なサイトの紹介)等行っています。又、パソコン教室を修了された方を対象に、フォローアップの場を設けています。以前、聴覚障がいの方が参加され、手話通訳の方を派遣して頂き、講義を受けられています。これからも、障がいの特性に配慮して開催し、参加者の日常生活やコミュニケーションにおけるスキルの向上を図り、地域に根差した活動を目指していきたいと思います。

障害者就労・自立支援センター

「たんぽぽ」

デジタル化の取り組み

デジタル化事業責任者 興梠 周平

二年目となりました。主となる国立国会図書館に貯蔵されている本のデジタル化への取り組みは、初めてのことだらけで試行錯誤の繰り返しでしたが無事に完遂することができました。

これを書いている一〇二三年十月時点では、すでに二回目の本のデジタル化に取り組んでおりほぼ作業は終わっている状況です。

二年目ということもありますが一緒に作業している利用者さんをはじめ、参加していただいている皆さんの成長には驚かされました。

本の状態を確認してもらう工程ではより細かい気づきが増え、撮影する工程ではより正確に画像作成ができていました。撮影した画像を確認する工程ではパソコンの使い方にも慣れてきて、スムーズに操作を行い正確な作業ができます。そんな中で全体を通して特に感じ

たのは判断基準ができるということです。製品の仕様上、良い・悪いの判断が数値化などで明確にすることができず、かつ複雑で判断に迷う場面が多くありました。以前は職員が毎回確認をしていましたが、今年度はその判断を各々に任せることができ、より作業もスムーズに進めることができましたと感じます。

また、以前は職員が対応していた作業を、今年度は利用者の方に少しでもしていただきたいと職域の拡大にも取り組みました。

アドビのフォトショップを使っての画像作成、マイクロソフトのアクセスを使つたデータベースの入力作業など難しいと話しながらも作成し納品まで実践できました。

各々が本のデジタル化に取り組み、経験を積んでいたからこそ仕組みを理解し作業ができたと思いません。まだ全員に経験をしてもらえていませんが、今後もより多くの利用者に本のデジタル化で出来る仕事を経験しスキルとして自分のものにしていただければと考えています。

職域の拡大ということといえば、今年度は本のデジタル化だけでなく様々な業務にチャレンジしています。

ます。本のデジタル化ではあまり行きないキーボードを使っての入力、文書をコピーし貼り付ける作業などパソコンの一般的な操作方法を使う業務を受託しました。

良くも悪くもパソコンを全く使つたことがない方、家で使つている方など様々でそもそも全員が作業できるか?と懸念点がありましたが。できないという声ももちろんありましたが、とにかくまずはやってみよう!と多種多様な方が集まる中、全員で作業を開始しました。

マウスの動かし方、ローマ字入力のやり方など基本的なところから始まり、職員がマニュアルを作成し実践してみせ利用者の方にやつてもらう、という作業の繰り返しでした。当初はもちろん時間がかかりましたが、徐々に職員を呼ぶ声が減つていきましたが、一人で作業できる時間が増えていきました。現在はマウスの右クリックだけではなく、キーボードのショートカットキーも使用しながら作業をしています。

操作方法や入力のスピードは各段によくなつてきましたが、正確性の課題もあります。

最終確認を行う中でいろいろな間違いを見つけますが、特に同じ間違いを繰り返している場合は、作業を確認しレクチャーしながら考え



方を共有し正確性を高めています。

何か間違つても気軽に声掛けができる環境も大事ですが、情報、ルールを共有すること、共有する上で共通言語を浸透させることも重要な点だと思います。作業効率と正確性の両立は難しい課題ですが、業務を行っていく中でいろいろなことにチャレンジできる環境はこれからも作り続け、ともに成長していきたいと思います。

つくしんぼ

久しぶりのレクリエーション 日帰り旅行

レクリエーション委員 高口 逸郎

今年の五月に新型コロナウイルスが五類へ移行、行動制限も緩和され、四年ぶりのつくしんぼのレクリエーションが行われました。当日は、絶好の行楽日和でこれまでの酷暑から一転、とても涼しい日帰り旅行となりました。

参加利用者二十三名、職員十五名で、気分一新をテーマとして大自然を堪能できる糸島の「白糸の滝」と、世界へも進出し有名な「一蘭」のラーメン工場・博物館を見学に行きました。

福岡県指定の名勝「白糸の滝」では、マイナスイオンを存分に浴び、清流で育ったそばやヤマメ料理を堪能しました。

利用者の皆さんも、久しぶりの旅行で知らない人同士でも笑顔で会話されたり、滝の真下まで行かれたりパワースポットの中での撮影会もあり、とても楽しまれていきました。次に向かう「一蘭の森」は、白糸の滝より三十五分の所にあり、東京

ドーム約一個分の広大な敷地に建てられた綺麗な施設でした。

まだお腹に余裕がある人、お昼ごはんを食べて時間が経つてないでの「もう、食べきらんよ。」と言われる方いろいろでしたが、到着すると同時に食券を買われている利用者の方も数名おられました。

博物館を見学すると、製造工程時の写真、調理備品等の展示もされていました。

また、これまで来場され食事をされた芸能人・著名人のサインが、壁いっぱい入りきれなくらい展示されていました。

お腹も満腹状態、最後に記念写真を撮り、皆さん満足されたのか家路へ向かう車の中ではぐつすりと皆さん休まれ、とても良い日帰り旅行となりました。

また、日帰り旅行に行かれなかつた皆さんとの、「大牟田で美味しいもの食べよう」という企画も年内に予定しています。

来年も利用者の皆さん方と、楽しく語り合える時間をもっと増やしたいと思っています。

職員研修「事業所見学」に行つてきました!

事務副責任者 松尾美都里

去る十月二十四日(火)、つくしんぼの職員で事業所見学に行かせていただきました。行先は二か所。「社会福祉法人明和会陽だまりの里」「社会福

祉法人拓く ポレボレ」でした。

まず、一か所目の「陽だまりの里」では、三か所のGHを見学させていただきました。「輪(リング)」というG Hは、区分五一六の方が入居されており、共有スペースがとても広く取られていました。トイレ、浴室も興味深く拝見させていただきました。

どちらも共通しているのが、土日の余暇活動に力を入れておられるとの事でした。余暇時間の過ごし方は、利用者さんそれぞれの希望があると思いますが、そこに選択肢がたくさんあるというのはとてもいいもののように思えました。

そして、どこの事業所の方もなにがベストなのか一生懸命模索されているなど感じました。



また、「サウスステージ」「ノースステージ」というGHでは、入口は男性女性で別々ですが、中に入ると食堂で利用者同士が出会えるつくりとなつており(食堂を中心R・L・女性スペース)一緒に食事をしたり、朝食の準備をされているとの事でした。

二か所目の「ポレボレ」。「ニュンバ」(スワヒリ語で「家庭」の意)というGHを見学させていただきました。

こちらも、建物の設備的なものももちろんですが、職員体制にとても

興味を覚えました。職員のほかに、ボランティアさんや、ご家族、

そして地域の方と町全体でつながりがあり、大変驚きました。



人の数だけ、感じ方も無数にあると思います。世の中の障がい者の方が、多くのライフスタイルの中から選択できることのが、一番だと思いました。

日々に追われてしまいがちですが、改めて考える機会となりました。

二〇二三年七月一日
二〇二三年十月三十一日

※顧不同・敬称略

朝枝育美、有明生コン販売株式会社、医療法人CCS菅原病院、植木善昭、浦田英治・恵子、太田勝利、大西克子、大牟田フレンドシップクリスト教会堤嘉宏、大牟田防災工業株式会社、大牟田めぐみ教会、岡田律子、叶義文・郷子、株式会社IRC、株式会社大洋建設、上津原博子、北岡敏郎、清原和子、古賀敬之、社会福祉法人恵愛会理事長深田洋文、社会福祉法人福岡コロニー、社会福祉法人ユートピア学園、所方敏彦、杉野有美子、生活支援センター長大庭誉綱、田中研次、谷山雅子、富重忠行、永沼美和子、永野はるみ、ナゴミグレースチヤーチ、野下順子、平野信義、福原保子、ヘアサロンタケスエ、眞柄光久、溝田智恵子、宮崎哲博、村上裕彦、森雅司、森部信、有限会社三光産業

ご協力ありがとうございました

■寄付金(一般、建設募金、友の会)

朝枝育美、有明生コン販売株式会社、医療法人CCS菅原病院、植木善昭、浦田英治・恵子、太田勝利、大西克子、大牟田フレンドシップクリスト教会堤嘉宏、大牟田防災工業株式会社、大牟田めぐみ教会、岡田律子、叶義文・郷子、株式会社IRC、株式会社大洋建設、上津原博子、北岡敏郎、清原和子、古賀敬之、社会福祉法人恵愛会理事長深田洋文、社会福祉法人福岡コロニー、社会福祉法人ユートピア学園、所方敏彦、杉野有美子、生活支援センター長大庭誉綱、田中研次、谷山雅子、富重忠行、永沼美和子、永野はるみ、ナゴミグレースチヤーチ、野下順子、平野信義、福原保子、ヘアサロンタケスエ、眞柄光久、溝田智恵子、宮崎哲博、村上裕彦、森雅司、森部信、有限会社三光産業

恵愛友の会会員募集!!

「障害者福祉」の益々の充実を願いつつ、ともに歩み支えていただける会員を募集しております。

一般会員	一口	500円/月
特別会員	一口	1,000円/月
賛助会員	一口	300円/月
団体会員	一口	10,000円/月

※一人でも多くの人に会員になっていただきたいと願っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

献金申込送金先

社会福祉法人 キリスト者奉仕会

〒836-0895

福岡県大牟田市新勝立町3丁目5番地15
大牟田恵愛園 0944-51-8750

《銀行振込》 福岡銀行 大牟田支店
普通 2512469

《郵便振込》 郵便振替 01780-3-38380

※この献金は福祉事業活動のために活用させていただきます
※郵便振込用紙を入れていますので、献金される方はご利用下さい。

大牟田恵愛園・恵愛ワーカセントラル・ハーツ・たんぽぽ・つくしんぼ

クリスマス祝会の御案内

日時:2023年12月9日(土)

礼拝/10:00~ 茶話会/11:00~

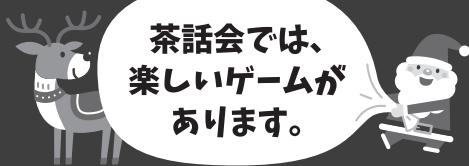
場所:大牟田恵愛園・地域交流スペース

内容:クリスマス礼拝・茶話会

メッセンジャー

田中 文人 牧師

(有明キリスト教会)



茶話会では、
楽しいゲームが
あります。

※新型コロナウイルス感染防止の為、法人利用者、ご家族、役職員の参加のみとさせていただきます。

<問い合わせ先> 大牟田恵愛園 TEL (0944) 51-8750